

本日のテーマ「花」

実施日：2022年3月27日

1 「散歩が楽しくなる花の手帳」

稲垣栄洋／監修 2021年 東京書籍 【470】

あたたかくなって花屋や道ばたでたくさん種類の花を見かけます。花の知識が増えると散歩も楽しくなります。



2 「花ことば 上・下」

春山行夫／著 1996年 平凡社 【627】

同じ花でも世界各国でそれぞれ由来があり、花ことばの意味合いも違います。

気軽に読めるロマンチックな「花ことば」の本です。

3 「園芸家の一年」

カレル・チャペック／著 飯島周／訳

2015年 平凡社 【620.4】

「園芸家 12 カ月」

カレル・チャペック／著 小松太郎／訳

1977年 中央公論社 【620.4】

カレル・チャペックの園芸への愛が独自のユニークな表現で書かれています。

ドイツ版と千歳版では、その表現がまた異なるそうです！



4 「紙で作る美しい立体の花々」

やまもとえみこ／著 2021年 日本ヴォーグ社

【594.8】

表紙に載っている花が、本物そっくりで、きれいだねと褒められました。読書会コーナーに置いている花は、この本の型紙を70%に縮小して作りました。紙は普通の画用紙ですが、けっこう上手に作れます。



5 「ペーパーフラワーの時間」

堀込好子／著 2022年 ブティック社 【594.8】

上記4の本は、作るもの、材料や道具を揃えるもの、少々面倒です。

こちらの本は、細長く切った紙を二つ折りして糊で貼り、ガクガク切って端から巻くだけで作れますよ！



6 「犬がいた季節」

伊吹有喜／著 2020年 双葉社 【Nイ】

桜の花のこの季節に読むのが、ぴったりな本です。

“犬好きさん”でなくても楽しめます。2021年の本屋大賞

第3位だった本です。“どんな時代であっても自分のことを泳ぐのは自分なりの”

7 「神々の花園」

コメントがしつこい（カバー裏に書店員さんのコメントがあります）

澤野新一郎／文・写真 2015年 福音館書店 【472】

表紙にも使われている、すばらしい一面の花畑、なんと南アフリカ

共和国です。毎年どんな花が咲くか分からない、自然に生まれた花畑。

地元の人たちは“神々の花園”と呼ぶそうです。自然界の花の神秘を感じます。

8 「花と短歌でめぐる二十四節気花のこよみ」

俵万智／季節の案内人 2021年 KADOKAWA 【627.9】

「桜木杏、俳句はじめてみました」

堀本裕樹／著 2019年 幻冬舎 【SNホ】

70セントの花束も素敵ですが、2090円で、

おもしろいこの本を70セントするということもすごく喜ばれると思います。

『桜木杏...』は、俳句を通してたくさん花がでてくるので、一緒に紹介したい。



9 「おはなをあげる」

ジョナルノ・ローソン／作 シドニー・スミス／絵

2016年 ポプラ社 【Eオ】

女の子が花をみつけたから歩く様子か描かれた絵本です。

最初は女の子の服だけか赤くぬらわれていますか、誰かに花をあげることで世界に鮮やかな色が...。文字はありません。絵でじっくり味わって下さい。

10 「野菊の墓」

伊藤佐千夫／著 1986年 新潮社 【SNイ】

利用者さんよりおすすめていた本です。

“純愛が世間体には勝てなかった世間（なつての）には、よくある話じゃないか。現代は自由度が広がって、どうなるのかなと思う”

ありがとうございます。

